

言語学におけるグロスの 基本的なルールと特徴

田川 拓海 (筑波大学)

tagawa.takumi.kp@u.tsukuba.ac.jp

[言語学におけるグロスの基本的なルールと特徴](https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/) © 2024
by 田川拓海 is licensed under CC BY-NC-SA 4.0.
<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/>

この資料の性質

この資料（スライド）は表紙に示してある通りの[クリエイティブ・コモンズライセンス（CC BY-NC-SA 4.0）](#)で配付しています。この条件下で資料の全体あるいは一部を改変・修正してお使いいただけます。もちろんそのまま使用しても構いません。

参考：[クリエイティブ・コモンズ・ジャパン FAQ](#)

また説明の都合上、出典の示し方が一般的でない場合があります。

グロスを取り上げる目的

1. 言語学における基本的なデータの示し方である「グロス」の基本について理解する
2. 文法に関する単位や文法範疇の紹介を通して言語学の基礎に触れる

グロスとは

グロス (interlinear gloss)

語・形態素ごとにその意味や文法機能を記したものの。その言語の例(文)と訳の間に置かれ、その2つをつなぐ役割がある

(1)	ame-ga	hut-ta	例文
	rain-NOM	fall-PST	← グロス
	'It rained.'		訳

グロスとは

グロス(や関連する記法)があると

⇒ その言語の例文のどの要素がどんな意味や文法機能を表しているのか分かりやすくなる

(1) ame-ga hut-ta

rain-NOM fall-PST

‘It rained.’

← グロスが例文と訳を
仲介する

グロスとは

グロス(や関連する記法)がないと...

⇒ どの要素がどんな意味や文法機能を表しているのか分かりにくい (amega = It?)

(1'') amega hutta

'It rained.'

例文

訳

グロスとは

「グロスを付ける(付けろ)」という場合は、グロスだけではなく
例文+グロス+訳の3点セットで書くことを指すこともある

(1) ame-ga hut-ta
rain-NOM fall-PST
'It rained.'

← グロスを付ける

グロスを読めると何が良いか

〇〇語学（例：日本語学、英語学、…）の研究や勉強をするには、その言語がある程度できれば書かなくて済むことも

(1') 雨が降った。

(1) ame-ga hut-ta
rain-NOM fall-PST
'It rained'

グロスを読めると何が良いか

〇〇語学（例：日本語学、英語学、…）の研究や勉強をするには、その言語がある程度できれば書かなくて済むこともあるが…

⇒ その言語で書かれた文献が少なく、英文の文献を読まなければならない場合も

⇒ 日本語などについても英文の文献を読まなければならないこと、読めると助かることは珍しくない

グロスを読めると何が良いか

なじみのうすい／まったく知らない言語のデータもある程度理解することができる

(2) Larike: 三数 (trial) の例 (Corbett 2000: 21)

Duma hima aridu naʔa

house that I.TRIAL.EXCL own.it

‘We three own that house’

グロスを読めると何が良いか

なじみのうすい／まったく知らない言語のデータもある程度理解することができる

(3) 琉球諸語奄美語湯湾方言

wan=na koow-aN

1SG=TOP buy-NEG

‘I do not buy (it)’

(Handbook of The Ryukyuan Languages: 337)

中間まとめ

言語学（+隣接分野）で研究をする場合、少なくともグロスを読めるのは必須、書くのは…

- ⇒ グロスを書かなくて良い状況もあるが、その環境だけで研究できるとは限らない
- ⇒ グロスを書くことで言語（学）に関する理解が深まるので（まだ）必要がなくてもチャレンジするのがおすすめ

グロスの基本とルール

Leipzig Glossing Rules

Max Planck Instituteのサイトで読める

⇒ web版は概要でpdf版の方が詳しい

下地理則氏のサイトから非常に詳細な解説が読める

⇒ 現代日本語(標準語)を含む日琉諸語が多く例に使われていて日本語になじみのある者にとって分かりやすい(内容はこのスライドより詳細・高度)

グロスの基本とルール

Leipzig Glossing Rules

の基本ルールを見ていく

⇒ 例(文)は資料で用いられているものを使う

⇒ おまけとして関連する文法範疇や言語現象も紹介

ルールを見ていく前に

Leipzig Glossing Rulesはよく整備されており、さまざまな言語をカバーできるが、**グロス**は**文章による説明とセット**で使うのが重要

⇒ グロスの表記やルールを精緻にすればグロス付き例文だけであらゆる言語（言語現象）を中立的に記述できるとは考えない方がよい

ルールを見ていく前に

(3) 琉球諸語奄美語湯湾方言

言語名

例文
番号

wan-na koow-aN

I SG-TOP buy-NEG

'I do not ~~buy~~ (it).'

内容語は意味の近い
英語で書く(小文字)

グロスの基本とルール

Leipzig Glossing Rules

Rule 1: 例文とグロスは語ごとに縦で左端を合わせる

⇒ Wordなどでできれいにやるのは大変 (LaTeXだと楽)

(4) Indonesian

Mereka	di	Jakarta	sekarang.
they	in	Jakarta	now

'They are in Jakarta now.'

グロスの基本とルール

Leipzig Glossing Rules

Rule 2: 形態素はハイフンで区切って、

例文とグロスで数を合わせる

(5) Lezgian

Gila abur-u-n ferma hamišaluğ güğüna

now they-OBL-GEN farm forever behind

amuq'-da-č.

stay-FUT-NEG

'Now their farm will not stay behind forever.'

グロスの基本とルール

Leipzig Glossing Rules

Rule 3: 文法的形態素 (grammatical morpheme)は大文字で略記する (small capitalもよく使われる)

(6) Russian

My s Marko poexa-l-i avtobus-om v Perdelkino.

we with Marko go-PST-PL bus-by to Peredelkino.

'Marko and I went to Perdelkino by bus.'

グロスの基本とルール

Leipzig Glossing Rules

Rule 4: 1つの要素が複数の文法機能に対応する場合、文法機能をピリオドで区切る

(7) Latin
insul-arum
island-GEN.PL
'of the islands'

グロスの基本とルール

Leipzig Glossing Rules

Rule 5: 人称と数はピリオドで区切らない

(8) Italian

and-iamo

go-PRS. I PL (not: go-PRS. I .PL)

'we go'

グロスの基本とルール

Leipzig Glossing Rules

Rule 6: 形態素として表面には出てこない文法機能は角カッコ[]で囲むか、ゼロ(∅)を形態素のように扱う

(9) Latin

puer

boy[NOM.SG]

‘boy’

あるいは

puer-∅

boy-NOM.SG

‘boy’

グロスの基本とルール

グロスはさまざまな言語をある程度統一した書き方で記述できるように整備されたものだが、分析方法や理論的な立場が反映されることは避けられない

⇒ ゼロ形態素 (\emptyset) の仮定もその一つ

- ゼロ形態素については形態論の研究でさまざまな問題点が指摘されてきたが、言語現象の記述には使う
- ゼロ形態素の表記はギリシア文字‘ ϕ ’で代用しない

グロスの基本とルール

Leipzig Glossing Rules

Rule 7: 性 (gender)などの**内在的な (inherent)**文法機能は丸カッコ()で**囲む**

(10) Hunzib

oz#-di-g xõxe m-ug'e-r

boy-OBL-AD tree(G4) G4-bend-PRET

‘Because of the boy the tree bent.’

(G4=4th gender, AD=adessive, PRET=preterite)

文法範疇：性

性 (gender)

⇒ 文法的性 (grammatical gender)とも

⇒ 女性 (feminine)、男性 (masculine)、中性 (neuter)の
ような値だけでなく、広く名詞の分類に関わる文法範疇を
指す(ことがある)

⇒ 言語によっては値の数がかなり多くなることも

グロスの基本とルール

Leipzig Glossing Rules

Rule 8: 1つの要素が2つ(以上の)形態に分かれて現れる場合、同じグロスをそれぞれに付ける

(11) Lakhota

na-wíčha-wa-xʔu,

na-xʔuが語幹

hear-3PL.UND-1SG.ACT-hear

‘I hear them’

(UND=undergoer, ACT=actor)

グロスの基本とルール

Leipzig Glossing Rules

Rule 9: 接中辞 (infix) は山カッコ <> で囲む

(13) Tagalog

b<um>ili biliが語幹

<ACTFOC>buy

‘buy’

(ACTFOC=Actor focus)

接辞

接辞 (affix): 他の形態素にくっついて意味を付け加えたり品詞を変えたりする拘束形態素

a. 接頭辞 (prefix) : 不 + 払い → 不-払い

b. 接尾辞 (suffix) : 暑(い) + さ → 暑-さ

c. 接中辞 (infix) : ganda 'beauty' + um 'become X'
→ g-um-anda 'become beautiful' (Tagalog)

d. 接周辞 (circumfix) : Intsik 'Chinese person' + ka an 'group of X'
→ ka-intsik-an 'the Chinese' (Tagalog)

グロスの基本とルール

Leipzig Glossing Rules

Rule 10: 重複 (reduplication) はチルダ~でつなく
(ハイフンでも良い)

(14) Hebrew

yerak~rak-im

green~ATT-M.PL

'greenish ones'

(ATT=attenuative)

言語現象：重複

重複 (reduplication)

語・形態素の全体または一部が繰り返される

⇒ 意味の強調や繰り返し、複数性を表すことが多く、意味が弱まる？attenuativeは(色々な言語で観察されるが)面白い

(15) a. ひとびと(人々)、あつあつ(熱々)、…

b. 汗をかきかき駅まで歩いた

c. 板を トンと／トントン 叩いた

補足

Rule 9 接中辞 (infix)、Rule 10 重複 (reduplication)については、専用の表記を用いず単にハイフンでつなぐことも珍しくない(言語や状況によるかも)

グロスと形態論

形態素境界で-と=を区別して使うことがある

⇒ =は接語 (clitic)の境界に使う(日本語では助詞)

(3) 琉球諸語奄美語湯湾方言

wan=na koow-aN

I SG=TOP buy-NEG

‘I do not buy (it)’

(Handbook of The Ryukyuan Languages: 337)

グロスと形態論

接語 (clitic)の境界に=を使うことについてはLeipzig Glossing Rules (pdf版)の2に記載がある

接語とは、統語論上では単独の語として扱われるものの、音韻論的には他の語(これをホストと呼ぶ)に依存している拘束形態素のことである。倚辞とも訳される。

(「接語」『明解言語学辞典』：133)

グロスと形態論

日本語の「助詞」は日本語以外の言語で広く認められた単位ではないので、一般的な言語学の記述・研究では接語として扱うか、**小辞 (particle)**という名称が使われる

【小辞 (particle)】屈折せず文法機能を担う短い語で、どの語類にも属さないものをまとめて呼ぶ。不変化詞、助詞とも呼ばれる。何を小辞に含めるかは言語ごとに異なる。

(「語類」『明解言語学辞典』: 96)

補足

例文に付けるグロス(や訳)が英語以外の言語で書かれることもある

(16) バスク語(『明解言語学辞典』: v)

Liburu zerra-tu=a=k ez du
本 閉じる-PFV=SG=ERG NEG TR.PRS
inor=i ere irakas-ten
誰も=DAT も 教える-IPFV
「閉じられた本は誰にも教えない」

グロスを書く・考える

日本語のアスペクトに関わる「てい(る)」にどうグロスが付けられているか

⇒ 研究者・分析によりさまざま

(17) odoriko ga odot-**tei**-ru
dancing.girl NOM dance-**PROG**-NPST
'Dancing girls are dancing'

(NPST = nonpast)

(*Handbook of Japanese Semantics and Pragmatics*: 331, 一部改変)

グロスを書く・考える

複数の分析を検討する場合や、特定の文法範疇を用いたくない場合など、(消極的な選択として)形態そのものをグロス代わりにすることがある

⇒ 付記や本文で丁寧に説明する

(18) Taroo ga hasit-**tei**-ru PROG [progressive]

Taroo NOM run-**TEI**-NPST

‘Taroo is running’

(TEI = 「てい(る)」という形)

(*Handbook of Japanese Semantics and Pragmatics*: 404, 一部改変)

グロスを書く・考える

複数の分析を検討する場合や、特定の文法範疇を用いたくない場合など、形態そのものをグロス代わりにすることがある

(19) Hanako ga taore-**tei**-ru RES [resultative]

Hanako NOM fall-**TEI**-NPST

‘Hanako is on the ground (after falling)’

(TEI = 「てい(る)」という形)

(*Handbook of Japanese Semantics and Pragmatics*: 404, 一部改変)

グロスを書く・考える

現代標準語の「てい(る)」には、進行 (progressive)、結果 (resultative)のほかにも、経験 (experiential)、反復 (iterative)、習慣 (habitual)などの解釈があるとされる

- (20) 経験: 次郎が前に本を買っている。
反復: 美智子がドアを叩いている。
習慣: 三郎が自転車で通っている。

*(Handbook of Japanese Semantics and Pragmatics: 404,
日本語表記化は田川による)*

グロスを書く・考える

例文(17)(18, 19)(21)は同じ本の中の別の章(筆者も別)でそれぞれ挙げられているもの

⇒ (21)ではteは動詞の一部、iruがアスペクトを担う形態素でiとruを分けていない

(21) Taroo ga aruite-iru
Taroo NOM walk-DUR.NPST
'Taroo is running' (DUR = durative)

(*Handbook of Japanese Semantics and Pragmatics*: 425, 一部改変)

グロスを書く・考える

踊っている: odot-tei-ru

走っている: hasit-tei-ru

のように形態素を分けるのはなぜか

⇒ 動詞を子音語幹 (odor, hasir)、促音便を語幹末子音の同化と分析。下記のように書く場合も

(17') odoriko ga odor-tei-ru
dancing.girl NOM dance-PROG-NPST
'Dancing girls are dancing'

練習問題

1. 例文(2)のグロスに用いられている略記「EXCL」はどのようなことを表す文法なのか簡潔に説明してください。
2. 現代英語の例文 “She loves John.” にグロスを付けてください(訳は日本語にする)。
3. Leipzig Glossing Rules (pdf版)のList of Standard Abbreviationsから、主格・対格・属格以外の格 (case) の名称を5つ以上抜き出し、「主格 (nominative)」のような形で書いてください。

練習問題（重め）

4. 日本語記述文法研究会(編)『現代日本語文法』の1-7巻のいずれかから語を5つ以上含む例文を1つ選び、英語表記のグロスをつけてください。さらに、グロスを付ける際に工夫した点や難しかったところや悩んだポイントなどについて簡潔にまとめてください。

【条件】

- a. 例文の出典情報は必ず付ける（ページ数まで）。
- b. 助詞／助動詞はここでの「語」としては数えず、-か=でつなく。
- c. 非文や容認性の低い例文を選んでも良いが、文法性／容認性判断も付ける。
- d. 例文はラテン文字表記にし、英訳も付ける。
- e. グロスの略称はできるだけLeipzig Glossing Rulesのものを使う。
- f. 文献でグロスを調べて使っても良いが、必ず出典を示す。

文献

Corbett, Greville G. (2000) *Number*. Cambridge: Cambridge University Press.

Heinrich, Patrick, Shinsho Miyara and Michinori Shimoji (eds.) (2015) *Handbook of The Ryukyuan Languages: History, Structure and Use*. Berlin, Boston, Munich: De Gruyter Mouton.

Jacobsen, Wesley M. and Yukinori Takubo (eds.) (2020) *Handbook of Japanese Semantics and Pragmatics*. Boston, Berlin: De Gruyter Mouton.

斎藤純男・田口善久・西村義樹(編) (2015)『明解言語学辞典』三省堂.